

# きずな

2009年12月10日

NO 772

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (62-6200)

11月30日、井原市議会11月定例会が開会しました。会期は12月22日までの23日間です。30日の開会日、瀧本市長が議案の提案説明を行いました。その中で市政の状況等を話しました。その内容(概要)は次のとおりです。

井原市の予算編成については、国・県の予算編成等が明らかでない現段階において、的確な財政見通しを立てることは極めて困難ですが、歳入面では新政権が公約としているひも付き補助金の廃止と、一括交付金化による国庫支出金への影響は大であると思われ、また、安定した法人市民税が見込めない等、自主財源の確保は、引き続き厳しいものと予測されます。

こうした財政環境の中にあっても、井原市第6次総合計画で掲げる将来都市像「美しい自然、息づく文化、笑顔でつながる人、元気発信都市井原」の実現に向けて安心・安全を各分野の共通テーマとして基本施策を着実に推進してゆく必要があると考えています。

このため、来年度の予算編成にあたっては、例年にも増して新政権下での国の動向や景気低迷による税収の状況を注視し、財源の確保に努めるとともに、歳出全体の徹底した洗い直しを行い、制度・施策の抜本的な見直しや、各経費間の優先順位の厳しい選択を行うことにより、予算配分の重点化・効率化の実施に努めてまいります。市政の状況等は次の通りです。



## 新型インフルエンザ

**流行の拡大が懸念される。ワクチンの接種費用を市独自で助成。手洗いやうがい、症状が少しでもあるときはマスクや咳エチケットでの対応を。**

国内における新型インフルエンザの感染が急速に拡大しつつあります。国立感染症研究所では、27日7月上旬以降の国内での累計患者数は、約1千75万人になったと発表しました。岡山県内でも感染者数が増加しており、岡山県では9月3日からインフルエンザ注意報を発令し、注意喚起を図ってききましたが、その後の休校や学級閉鎖を行う学校が相次いでおり、更なる流行の拡大が強く懸念されるため、11月20日にはインフルエンザ警報が発令されたところです。

市内においても、井原医師会の情報によりますと、警報発令から11月26日までの間に、市内医療機関を受診し、診断された累計患者数は809人であり、その多くが学齢期であることから、市内小学校・中学校・高等学校でも学級、学年、学校閉鎖が相次いでいる状況です。

こうした中、11月4日からは一部新型インフルエンザワクチン優先摂取も始まり、感染拡大防止に効果があるものと期待しているところです。本市においては11月16日に、市が実施すべき具体的な対策を定めた「井原市新型インフルエンザ対策行動計画」を策定しました。また、市民の皆さまの健康を守り、感染拡大を可能な限り抑制するため、新型インフルエンザワクチン接種に市独自での助成を行うなど、関係機関と連携を図りながら全力をあげて取り組んでいます。しかしながらこの感染拡大を防止するために、何よりも重要で最も効果的なことは、一人ひとりが手洗いやうがいを励行するなどの予防に努め、症状が少しでもあるときは、マスクや咳エチケットにより人にうつさない対応を行うことであると言われておりますので、皆様方におかれましては、日常の感染予防に最大限努めていただきますようお願いいたします。

## いばらサンサン交流館

**来年4月オープン予定。今までの実施事業を引き続き継承。今後、多世代の交流が図れる事業も実施する。より多くの市民のご利用を。**

現在、平成22年2月26日の完成。同年4月のオープンを目指し、工事は順調に進捗しており、本議会におきまして設置条例を議案として提出しています。施設の名称については、8月号の広報いばらやホームページ等で2ヶ月間に亘り募集したところ、全国から70点にも及ぶ応募があり、市民の皆さまを初め多くの方々の感心の深さに感謝しているところです。

そうした中で、副市長以下4名の職員と市民代表3名の委員で構成する審査委員会を先月開催し、審査の結果「いばらサンサン交流館」と決定いたしました。尚、「いばらサンサン交流館」の命名の理由は、3地域3世代のキーワード3を太陽のサンと鮮やかにきらめく様子の意味を持つ燦燦(さんさん)をイメージしたとお聞きしております。尚、交流館で実施する実施事業ですが、これまでいばら老人福祉センターで実施していた「小田川大学」については、定員を増やして実施するほか、



サンサン交流館  
(4日撮影)

2面へつづく

読者ニュース「きずな」に対するご意見や情報をしんぶん赤旗の配達・集金者にどしどしお寄せください。

**1面よりつづく** ふれあいサロン、14の趣味・教養講座等引き続き実施するなど、いばら老人福祉センターの機能を継承することとし、新規事業として多世代の交流が図れる陶芸教室や健康運動講座、高齢者の知恵・技伝承講座等計画しています。

いずれにしても、健康寿命の延伸を図る拠点施設を整備コンセプトとしており、自然環境に恵まれた清閑な環境の中での癒しの場、主体的な健康づくりを誘導する場、各種教室リレーション等を通じての生き甲斐づくりの場、多世代の交流ふれあいの場としてより多くの市民の皆さまにご利用いただきたいと考えております。

### グラウンド・ゴルフ場建設

**協会の意見を踏まえ、現時点での大規模な施設の整備は見送る。今後は、協会全体の合意が図られた段階で協議・検討する。**

井原市グラウンド・ゴルフ協会をはじめ、多くの方々からの建設要望を受け、本年4月から市職員で構成する「井原市グラウンド・ゴルフ場建設検討委員会」において検討してきたところです。検討にあたっては、候補地として各方面から提案・意見をいただいた市内24箇所について調査・研究を行うとともに、井原市グラウンド・ゴルフ協会からの要望書を元に、基本指針等を定め広域の交流大会が実施できる大規模なものを市内一箇所に建設することとし、詳細を検討してきたところです。

しかし、この検討の過程で、井原市グラウンド・ゴルフ協会と再三に亘り意見交換を行ったところ、協会から現時点では大きな大会は従来どおり井原運動公園陸上競技場利用することとし、大規模な施設整備については見送ることとし、その代わりに新たに井原、芳井、美星各地区に2コース程度の小規模な施設の整備を行って欲しいとの意見も出されたところです。したがって市としましては、井原市グラウンド・ゴルフ協会の意見を踏まえ、現時点での大規模なグラウンド・ゴルフ場の建設は見送るべきであると考えております。また、井原市グラウンド・ゴルフ協会が、希望しておられる3地区での小規模な施設の整備については、今後3地区での新たな敷地の確保や管理・運営方法等について井原市グラウンド・ゴルフ協会全体での合意形成が図られた際には協議・検討する必要があると考えております。

### 家庭ごみの有料化

**10月の生活系ごみは減量したが1ヶ月だけの集計なので、今後いかに減量効果を維持していくかが課題。**

ごみの減量化や循環型社会の構築に向け、本年10月1日から家庭ごみの有料化を完全実施しましたが、市民の皆さまのご協力により大きな混乱も無く実施できましたことに対しまして厚く御礼申し上げます。完全実施後の10月1か月分の生活系ごみ量を見てみると、燃やすごみが対前年比36.1%の減。燃やさないごみが対前年比20.5%の減となっております。

有料化が大きなごみの減量効果をもたらしたことは明らかですが、ごみ処理機購入補助金の拡充と他の施策と併せて講じた成果だろうと思えます。この数値はなにぶんにも1ヶ月だけの集計であり、また9月には井原クリーンセンタへの駆け込み搬入が相当あったことから、もう少し長いスパンでの検証が必要であります。今後いかに減量効果を維持していくかが課題でありますので、これからも粘り強く啓発活動を展開していく所存であります。

### 市民病院の院内保育所の開設

**年明けには開園の運び。今後の成果を期待したい。**

市民病院では、医師、看護師等の確保対策として、院内保育所の整備を始めております。この程、院内保育所の整備工事がおおむね完成しましたので、年明けには開園の運びとなります。つきましては今議会に開設準備経費を計上しておりますのでよろしくお願いするとともに、今後の成果に期待いたします。



病院敷地内に有る保育所になる建物（4日撮影）

### 情報通信基盤の整備

**来月中旬の高屋北部地区の整備で完了。今後は、地上デジタルテレビ放送やブロードバンドの施設を最大限活用し、市民生活の向上に取り組むたい。**

市内の情報格差の解消については、新市建設計画、井原市情報化計画の中で、最重要事項に位置づけ、平成18年度から積極的に基盤整備に取り組んできましたが、いよいよ来月中旬の高屋北部地区をもって完了いたします。これにより市内全域で地上デジタルテレビ放送への利用、ブロードバンドの環境が整ったので、今後はこの施設を最大限に活用し、市民生活の向上に取り組んでまいりたい。